

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・知」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己を抑制し、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で困難な状況下であっても、不撓不屈の精神を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①「体・徳・知」の調和がとれ、科学的思考のできる人材を育成する。 ②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	・本校の4つの生活信条「奉・人・物・礼」を実践する学校生活、教育活動を推進する。 ・進度より深度を基本に授業を展開し、進学、就職の実績を高める。 ・全国レベルの部活動や文科系部活動の更なる活性化を図る。	B	進路コース別にクラスを編成し、多様な教育活動を展開した。国公立大学への受験希望者が年々増加する状況に対応し、コース毎の募集定員を平成29年度より一部変更することを決定した。就職内定100%を今年度も達成した。崇城大学の協力の下、高大連携の取り組みを継続している。
	開かれた学校づくり	①学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。 ②保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	・HPや学校通信「文徳点描」の更なる充実を進める。 ・内部広報の充実を図る。 ・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を高める。	A	月刊紙「文徳点描」の発行、日々のHP更新により、迅速且つ適切な情報発信が出来た。PTA活動・同窓会活動ともに活発であった。今年度は熊本地震後に体育館を避難所として開放し、職員・生徒によるボランティア活動へと結びつき、地域に貢献ができた。
	教育環境の整備	①教育環境整備計画を推進する。 ②適宜施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	・新校舎及び周辺施設を有効に活用する。 ・環境美化のためゴミの軽減に取り組む。 ・教室内の掲示は適切に行う。	A	新しい施設設備の有効活用に取り組んだ。ゴミ箱の設置などは必要範囲に限定し、ゴミ処理の流れについて再検討を加え、ゴミの軽減に取り組んだ。黒板周辺への掲示物を禁止し、学習への集中力向上を図った。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②各コースの実情を見据え、3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。	・各コースの特色を出したシラバスを作成し、全ての生徒の学力向上を狙った授業を展開する。 ・先進校視察、各種研修会等の参加、研究授業、公開授業などによる意識向上を図る。	B	公開授業の実施により、日頃から緊張感のある内容を重視した授業を展開すべく、授業担当者の意識が高まった。研修会への参加により、意識の統一が図られ、見識を深めることができた。 今年度は時間の余裕がなく、研究授業の回数が少なかった。
	学習習慣	③家庭学習の習慣化を図る。 ④生徒の課題学習への取り組み状況を把握し、適切な学習指導を行う。	・担任は科目担当教師の連絡を密にし、クラスの学習状況を把握する。 ・担任は「学習と生活の記録」を活用するなど生徒個人の対応を図る。	B	各担任によってこまめな面談が実施され、家庭学習時間の増加が見られた。主要教科では、平日課題、長期休暇課題等を提出させることで、家庭学習の定着を図ることができた。今後も学習状況の把握に努める。
	読書指導	⑤本に親しむ環境、多面的に知を求める姿を育成する。 ⑥読書週間を周知徹底し、読書習慣の定着をはかる。	・図書館教育、読書指導の充実を図る。 ・学期毎に読書強化週間を設け、読書に向かう姿勢を身につけさせる。	B	図書室の利用を活発にすべく、各クラスの図書委員に利用状況を発信し、読書の奨励を促し、利用者増に結びつけた。毎年発行する『金峰』に読書感想文や後輩に贈る言葉及び、読書に関するアンケート調査の結果を掲載し、生徒の意識高揚を図った。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	①命の大切さの教育を行う ②基本的な生活習慣の確率 ③生活信条の実践 ④掃除の徹底 ⑤服装・容儀を正す ⑥遵法精神の涵養 ⑦情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策 ⑧薬物乱用防止の啓発と運動の推進	・新入生研修や各学年集会を通じて人として生きる教育を行う。 ・基本的な生活が送れるように生活習慣を身につけさせる。 遅刻・欠席なくし、皆勤を目指す。 ・教育環境づくりに力を入れる。 拭き掃除の徹底と整理整頓の指導 ・薬物乱用防止の啓発と運動の推進を外部講師等に依頼し、正しい知識を身につけさせる。	B	互いに人格を尊重し合い、イジメのない学校づくりを目指しているが、数件友人間のトラブルが確認できている。SNSの普及で情報ネットワークが生徒の身近なものになり、問題事案が発生しているようだ。頭髪・服装指導では、集会で指導を行うが日常指導に不十分さがあつた。校内美化に雑巾がけを取り入れた点は評価できる。通常のトイレ掃除では除去できない汚れを業者を入れ綺麗にした。現状を保つ掃除の徹底を図りたい。
		①進路に関する指導・支援を強める。 ②進路目標設定指導の充実を図る。 ③進路ガイダンス機能の充実を図る。 ④就職希望者の全員合格を継続する。 ⑤国公立大学への合格者を増やす。	・学年と連携し、生徒の進路意識を高めるために、進路講演会や進路情報提供を行う。 ・先生や学校の質の向上のために、他校視察や外部の講演会へ参加。 ・LHRや総合的な学習の時間を活用し、進路学習を推進する。 ・崇城大学での体験講座や他大学見学、インターンシップに参加する等、将来設計の機会を与える。	B	各学年の状況に合わせた講演会やガイダンスを実施し、感想文など自分の意見をもとめることで、進路選択を考える機会を持つ事が出来た。他校視察後の報告会を実施することで、職員間の情報の共有が図れた。学力向上を意図する授業や課外学習等、職員・生徒ともに不断の努力が見られた。今年度は熊本地震の影響で、残念ながらインターンシップを実施することができなかった。
特別活動	学校生活、学校行事の充実	①生徒一人ひとりが学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。	・生徒会の役割、各委員会の運営等を整理し、主体的に活動するため見直しをする。 ・文化祭やクリスマス等の行事の充実を図る。 ・HR活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。	B	学校行事・生徒会行事への生徒会役員の積極的な取り組みがなされた。生徒会担当職員を増やすことで、不定期ではあるが、行事前後に各委員会が確実に実施され、前年度と比較して活性化したと言える。今後は、定期的な委員会活動の推進によって生徒会の日常的な通常活動の充実が臨まれる。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各 部 及 び 理 工 科	総務部	円滑な学校行事の実施	①諸学校行事の円滑な企画・運営を図る。	・前年度の評価、反省を生かした企画。 ・ねらいや留意点の徹底 ・行事後の評価、反省。	B	前年度の反省を生かした企画、運営で、円滑な実施ができた。ねらいや留意点の徹底が望まれる。
		人権教育の推進	②人権教育の充実を図る。	・校内研修の充実。 ・校外研修への積極的参加。 ・LHRにおける指導の充実。	B	研修、集会、人権メッセージ募集等で人権意識高揚の取り組みを行った。討論の場を設けるとさらに効果的である。
		P T A等学校関係機関との連携	③P T A活動の充実を図る。	・学校との連携・調整。 ・教育活動への支援・協力体制の充実。 ・外部関係団体との連携。	A	保護者の学校行事への支援、協力体制は充実しており、関係諸団体との連携、情報交換も積極的であった。
		防災意識の高揚	④緊急事態に対し身の安全を図る。	・学校環境、立地条件を踏まえた対策。	B	避難場所がボランティア活動の拠点となったため避難経路の提示のみとなった。熊本地震後すぐに、避難経路の確認を全クラスで実施した。
		記録・資料の保管	⑤学校関係記録・保管の整備を図る。	・60周年記念事業等を踏まえた資料の収集・保管。	B	各部との連携、協力の下、記念行事への取り組みを検討したい。
	生徒指導部	学校生活の充実および社会性の涵養	①生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	・互いに人格を認め合う生徒集団をめざす。 ・欠席、遅刻早退がなく、健康な体力と精神を育てる。 ・挨拶が飛び交う明るい学校を目指す。	B	社会生活を送る上で常識を兼ね備えた生徒を育成することが大切である。集団生活の中で、互いを認め合い、協調し合い、共に成長する人間関係を構築する。自己中心的言動を慎み、自省する心を育む必要がある。
			②生命を尊重し、安全で健康な心身の確立を図る。	・命を尊重する集団をめざす。 ・イジメのない健全な学校環境をつくる。 ・交通安全指導を徹底し、生徒の命を守る指導を行う。	B	生徒の悩みやトラブルを逸早く発見できる体制を作ることが大切である。毎朝の健康観察やクラスの雰囲気や察知する。ルールの遵守、マナーの向上指導に努めた。
			③自主性を養い、勤労意欲に満ちた生徒の育成を図る。	・人生目標を計画設計させる。 ・社会に貢献できる喜びを体感させる。 ・学校行事や校内活動に積極的に参加させる。 ・ボランティア精神の育成を図る。	B	進路に対し目的意識をもった学校生活を送らせる。学年集会、LHR、講演会等を通じて自己を見つめる習慣が肝要である。指導計画は各学年に見合った計画がなされていると思われる。しかし学習や生活面に積極性が欠けると見られた。
			④特別教育活動の推進を図る。	・積極的な部活動への参加を推進する。 ・地域と連携したボランティア活動を計画する。 ・生徒会活動、委員会活動を通して愛校心、地域愛、所属意識を育てる。	B	部活動の人間教育は、目的意識や集団活動を行う上で大きな成果を上げている。文化系部活動を充実させることが今後の課題である。生徒会役員の生徒に、本校を良くしていこうとする熱意を感じた。今後は計画立案およびけん引力を期待する。地域との連携活動を引きたい。
	保健部	健康教育の推進 環境美化の推進	①自己を知り、体と心を鍛え健康で衛生的な生活の推進を図る。	・校医検診を始めとする各計測検査結果の適切な指導処置を図る。 ・保健衛生の啓発とその定着を図る。	B	定期健康診断結果及び受診勧告書を全生徒に配付し、要受診者の26%から報告を得た。保健日より等で保健衛生の啓発を行っているが、今後はその定着を図りたい。
			②生命尊重を基盤とした、健康で安全な行動・実践力の養成を図る。	・学校内外での活動(体育行事・学校行事)での適切な指導を行う。 ・安全・衛生的な環境整備の確立や安全点検の実施を行う。 ・心身の健康に問題を有する生徒への対応の充実を図る。	A	全クラスで毎朝健康観察を実施。その記録を残し、感染症対策や事前指導に生かしている。地震後の安全点検・修復により安全・衛生的な環境は確保できたが、まだ立ち入り禁止区域もあり今後も継続的な点検整備が必要である。様々な課題を持った生徒や保護者へは、SCやSSWと協力し細やかな対応ができています。
			③学校内外の環境美化推進及び奉仕精神の育成を図る。	・全職員による清掃指導の強化を図る。 ・教室・部室などの環境整備や美化意識の向上を図る。	B	全体指導に加え、今年度から生徒保健委員会による冷水器清掃を開始した。今後は奉仕精神、美化意識の向上への取り組みも必要である。
	図書部	読書習慣の定着 図書館利用の促進	①読書意欲を高める図書館教育を推進する。	・生徒が利用しやすい環境整備と蔵書の充実を図る。 ・読書週間等の企画や図書室だより等での読書推進活動を強化する。	B	読書に関するアンケートでは、今年も生徒の7割以上が図書室に行った事があると答えている。図書室だよりや掲示板への掲示で、新刊および人気のある本を紹介し、読書の意欲を高めている。
			②情報センターとしての機能充実を図る。	・教科関係資料や各種文献、蔵書、書庫等の整理とデータ化を進める。	B	各教科に案内し、関係図書を購入している。(例 地歴科:「世界史写真集」、理工科:「半導体が一番わかる」など)例年のように今年も『金峰』(第56号)を発売し、生徒の読書感想文・新聞投稿掲載文などを掲載した。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各部及び理工科	教務部	学力向上への意欲を育てる	①学校行事が行われる中、授業時数の確保を図る。	・教育課程の適宜改善を図る ・短縮授業、振替授業等で自習時間の減少を図る。	B	震災における授業日数減はやむを得ないが、本校は最小限に抑えられたと思われる。各行事における特別時間割によって、授業時間の確保は概ねできた。コースの特徴を生かすため、次年度教育課程の変更を行った（1年理工科特別進学コース）。
		分かる授業への取組	②生徒の学習意欲を喚起するよう、一層の授業改善と評価の充実を図る。	・考査等への取組を深め、学習意欲向上を進める。 ・教科主任会や関係部担当者会等を受け、生徒の学力向上対策を進める。 ・研究授業等を実践し、指導方法の工夫・改善を図る。	B	授業における導入や授業展開への工夫で、学習意欲の湧かない生徒に対して、発問する機会が増えた。習熟度が高くない生徒については、英語・数学を中心に個別の添削指導が行われた。毎日取り組むことで理解度が上がった。題材等の準備にも時間をかける必要がある。
		基礎学力の定着	③基礎基本の着実な定着を図ると共に、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育成する。	・3年間を見通した授業計画及び授業内容の精選を図る。 ・自宅での学習時間調査等を実施し、生徒個々への適切な指導を進める。	B	ガイダンスや講演会などによる進路学習から学習意欲の向上を促した。本校はコースが細分化されており、それぞれに充実感を与えられるように各学年で検討や対策がよく図られた。
		教務規定の周知徹底	④教務関係書類等を見直し、効率的な事務処理を推進する。	・諸処理が正確、迅速、適切なものとなる工夫・改善を図る。 ・教務規定や事務処理等について全職員に周知・徹底を図る。	A	教務書類においては、円滑に処理できた。一部更新されたものも含め、配布用行事予定表などに少し不備があるなど今後の課題となった。他部との打ち合わせが必要である。
	進路指導部	多様なニーズを持つ一人ひとりの生徒に応じた進路指導の推進	①多様化する生徒個々の進路目標への対応を推進する。	・進路情報の的確な提供と進路意識の高揚・啓発を図る。 ・進路講演会や出前授業を実施する。 ・進路担当者や担任との個人面談強化を図る。 ・外部教育力の活用（職員研修）を図る。 ・オープンキャンパス等への積極的参加を奨励する。	B	夏休みや冬休みに二者面談、更には保護者を交えた三者面談を実施し進路意識の啓発に努めた。特に3年生にはきめ細かい指導が行えた。学年会や教科会では共通理解は深まったが、学校全体での情報の共有や活用の域までに至っていない。職員の進路研修機会を増やし、進路指導の充実を図りたい。高大接続改革について、外部講師を招き、全職員が情報を共有し、学校の発展につなげたい。
		進路希望実現に向けた啓発活動、指導の体制の確立	②進路希望実現のための学力充実を図る。	・授業第一主義と自宅での学習時間の確保（教務と連携） ・学年部と連携した進路指導体制を確立する。 ・課外や模試等の見える課題の共有化を図る。 ・学年や教科間連携による小論文指導、面接指導等の充実を図る。	B	学力の定着を図る為に、授業の充実を柱に補習や課外授業等を計画的に行った。個別指導や添削指導も活発であった。自学に取り組む姿勢や受験生としての意識づけの為に学習合宿を行った。放課後に自習室を活用する生徒が年々増加している。小論文の指導で、国語教科担当者への負担が増加している。全職員で指導できるようにしていく必要がある。
		進路実現に繋がるキャリア教育の実践	③職業観の育成、職場体験の機会を設ける。	・職場見学会やインターンシップを実施する。 ・職業講話や出張講義、職場体験の機会活用を進める。 ・LHRの効果的活用、総合的な学習の時間との連携強化を図る。 ・教科活動を通して職業観を育成する。	A	熊本地震の影響で、職場見学会、インターンシップ、職業講話など一部実施できなかったものがあるが、1年次からの各分野におけるキャリア教育の指導が、就職内定率100%に繋がった。少子高齢化で人手不足が生じ求人は増加しているが、企業とのミスマッチがないようにすることが大切である。更なる基礎学力の定着と職業意識の高揚に努めたい。
	入試広報部	本校教育活動の素晴らしさの正確な情報の発信	①学校案内、ポスターによる広報(体育大会、文化祭、説明会など)を充実させる。	・学校案内は、本校の良い所を正確に伝える。 ・ポスターは伝達事項を分かり易く明確に表現する。	A	学校案内は学校全体の情報をわかりやすく網羅している。ポスターは、行事のお知らせや入試の日程などをわかりやすく伝えることに有効であった。
			②ホームページ等による情報発信。	・ホームページにより、教育活動を適切に発信する。また、頻繁に更新する。 ・部活動状況や成績等のブログを充実させる。	B	ホームページは平日にはほぼ毎日更新しており、十分な情報発信ができた。「文徳ing」では行事の様子や部活動成績を紹介している。しかし、各部の部活動ブログでの発信が十分でない。
			③各種説明会で本校の魅力を十分に理解してもらおう。	・各説明会の担当者が同じ内容を説明できるように説明原稿を作成する。	A	担当者が教育状況を分かり易く説明しているため、本校への評価が高まり、受験者が増加している。
	事務部	教育環境の整備	①教育活動を積極的に支援し、生徒を取り巻く教育環境の整備と向上を目指す	・施設・設備の安全点検や不要物品の整理に努める。 ・スポーツ面（部活動等）においても教育環境の充実を図り、生徒が活躍できる環境を積極的に整え活気に溢れる学園づくりに努める。	C	熊本地震により校舎・校地に甚大な被害を受けたため、施設の復旧に追われた1年であった。その影響により、目標としていた安心・安全に学校生活ができる施設の整備と備品の管理（点検等）、スポーツ面（部活動等）の活性化を目指した施設・設備の事業は計画通りには執行できなかった。次年度以降も補修工事が継続するため、予算は厳しいものがあるが、できる限りの教育環境の充実を図っていきたい。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各部及び理工科	カウンセリング部	心豊かで社会に貢献できる人材の育成と同時に、学校生活に充実感を覚える生徒にする。健全な人間関係を構築することが求められる。	<p>教育相談などを通じて、生徒が学校生活を送るうえで生じる様々な問題を軽減解消し、充実した学校生活を送れるよう支援する。特に不登校いじめ・発達障害を有する生徒等については、個々の事例に応じて十分な調査を実施し、関係部及び委員会などで検討し、学年・担任・家庭と連携して対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 教育面談を通して生徒へ適切な助言等をする。（基本は、生徒の悩みの原因がどこにあるかを、聴くことによつて探る。）内容が全校的な場合や外部と関わりがある場合は、生徒指導部などの関係部と連携し問題の解決にあたる。 ・「不登校生徒」への対応 長欠の生徒を調査し、概要と要因等を探り、担任・家庭との連携を密にする。専門家等の助言を得ながら、支援の方法などを考察する。 ・「いじめ」への対応 「こころのアンケート」などの諸調査で「いじめ」の早期発見に努め、重大化する前に対処する。「いじめ」が確認できた場合は、「いじめ防止委員会」で対応を協議し、学年・生徒指導部・保健部・カウンセリング部等で対応する。同時に家庭との連絡を密にする。 ・「発達障害を有する生徒」への対応 アスペルガー・高機能自閉症・LD等の生徒への専門的支援である「TEACHプログラム」の概要を担任へ提供する。 ・事例検討会 不登校や発達障害などの生徒の指導については「事例検討会」を適時開催し、専門的な支援方法を構築する。 S S W・外部カウンセラーと協力する。 ・アンケート調査の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果、ほとんどの生徒が学校生活に満足している状況である。 100%が満足しているわけではないので、課題を持たされている生徒への対応が求められる。 ・「不登校」の生徒に対しては、S S W・外部カウンセラーに依頼し相談を重ねた。その結果教室に入れるように改善された。 すべての生徒が問題解決につながったわけではなく、やむなく進路変更をせざるえない状況も発生した。今後の課題として入学した生徒全員が本校を卒業することが目標である。
	理工科	工業教育を通して地域社会に貢献できる人材を育成する。	<p>①専門教科で学んだ知識・技能を活かしてモノづくりや資格取得に対する意欲を高めると共に進路実現を保证する。</p> <p>②卒業後の進路選択と自らの人生設計に必要な力を育成するための「キャリア教育」「職業教育」を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や各授業において基礎から分かりやすい授業を行い、生徒の興味・関心を高め、学習内容を理解させる。 ・学年また専攻毎に資格取得に取り組むことで意識を高め達成感を体得し、更に上級の資格に挑戦する教育活動を進める。 ・国家資格取得については放課後などの時間を有効に活用し合格率を上げる。 ・県下の中学生を対象に「モノづくり教室」を実施。中学生を指導することで、更なる興味を高める。 ・学年ごとに進路別ガイダンスを実施し、一人一人の人生設計の一助とする。 ・企業講話などを実施し、職業観を育成する。 	B	<p>各専攻毎に国家資格取得を目標に専門教科への興味関心を高めた。放課後の学習会へも積極的に参加するなど学習意欲が向上し、合格率も向上した。モノづくりに関しては、実習の実施時間不足のため、あと一歩踏み込んだものが出来なかったが、県下の中学生を対象とした「モノづくり教室」を実施したことにより、生徒の多様な興味関心への対応が可能となった。</p>
					A	<p>特別進学コースは7名中、国立大へ3名、高専編入に2名、公立の短大2名と全員が国公立の学校へ進学を果たした。専門コースは約7割が進学、中でも崇城大学の特待生制度(ミライク50)に2名が見事合格した。また、就職が内定した生徒の8割超が従業員数300名以上の大企業である。</p>

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

4 学校関係評価

※生徒による評価（アンケートから）は、次のようなものであった。

- | | | |
|-------------------------|---------|------|
| (1) 学校が楽しいですか。 | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | の肯定的な回答 | ◇90% |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | の否定的な回答 | ◇10% |
| (2) 友達と一緒に活動するのが楽しいですか。 | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | の肯定的な回答 | ◇97% |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | の否定的な回答 | ◇3% |
| (3) 授業が分かりやすいか。 | | |
| ・分かる・まあまあ分かる、 | の肯定的な回答 | ◇72% |
| ・あまり分からない・分からない | の否定的な回答 | ◇28% |

上記3項目の中で、肯定的な回答をしている生徒については、その気持ちが継続するようにしていかなければならない。否定的な回答をした生徒については授業、HR、部活動、学校行事、友人関係等の中で何らかの楽しさ、達成感が感じられるようにするために、担任、授業担任、部活動顧問を始めとして全職員が関わっていかなければならない。特に否定的な回答が28%ある授業の分かり易さについては、総括表の中の学力向上、教務部の「成果と課題」にある事項を全職員が共有し、課題を達成していき、肯定的な意見が90%を超えるようにする必要がある。

※本校評議員による評価

- (1) 入学志願者が多く、学校の教育活動が県内全域から評価されていると感じる。
- (2) 難関大学を目指す生徒や部活動を中心に生活を送る生徒など、多様な生徒の夢を叶えるための指導ができています。また、時間の確保が難しい中、文武両道に動んでいる生徒のためにも学習と部活動において調和の取れた指導が行われていると考える。
- (3) 容儀指導や生活指導が適切に行われ、規律正しい校風であると感じる。
- (4) 学校の保護者会や体育大会にたくさんの保護者が来校されるのは、学校が評価されている証しだと思う。
- (5) 交通事故防止の為、自転車通学生のマナー指導を更に徹底してほしい。

5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

(1) 生徒指導

学校生活を通して、生活信条の実践を呼びかけ、心豊かで社会に貢献できる人材の育成に尽力した。多くの生徒が充実した学校生活を送っていることを実感する。しかし、自ら積極的に挨拶の声を上げる生徒は確実に減少している。集団活動が苦手な生徒の増加と相俟って、ほとんど生徒が情報ネットワーク(SNS)利用者となった今日、健全な人間関係を構築するための指導が益々望まれる。今年度は熊本地震で被災した生徒も多く、緊急時の連絡のために、本来は禁止していた携帯電話・スマートホーンの校内への持ち込みを校内での使用禁止という条件で認めているが、情報ネットワーク(SNS)に絡んだトラブルも多く発生している。今後はどのように対応するか大きな検討課題である。

(2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

進路意識の高揚による学習意欲の高まりという構図を念頭に、生徒の進路目標に対応した5つのコースを設け、個々の生徒に対して学習指導を行った。学習意欲の低い生徒の基礎学力の定着が重要な課題である。全ての生徒が、将来の「基礎学力テスト」に対応できるよう、学力の3要素といわれる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を身につける指導の工夫が望まれる。地道な広報活動により、今年も多くの受験生を迎えて入学試験を実施することができた。

(3) 教育環境の整備

教育環境の整備については、昨年度までに校舎・体育館・駐輪場・いこいの広場と新しい施設設備が一通り完成し、旧校舎の解体工事も終了した。今年度はその周辺施設へと整備を広げる予定であったが、熊本地震によって予定変更を余儀なくされている状況である。復旧工事は来年度も続くが、同時に、安心・安全に学校生活ができる施設の整備や部活動等の活性化を目指した施設設備計画にも順次取り組んでいる。

(4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

熊本地震の影響で、体育大会を中止せざるをえなかつたのは残念であったが、5月8日に学校を再開するまでの3週間の間に数多くの生徒が、自主的にボランティア活動に参加しており、社会に貢献したいという気持ちの高まりを感じられた。また、その後の学校行事・学年集会などを通して、各種講演会を実施し、生徒の心の成長を促した。アンケートにおいて「友達と一緒に活動するのが楽しい」という生徒が全校生徒の97%を締める状況は評価に値する。部活動では体育部17・文化部4・同好会8と活動の場は豊富である。体育部17の内13部活動で女子の入部が可能であり、女子生徒の活躍の場も広がりを見せている。生徒会活動においては、委員会活動の活性化に具体的に取り組み始めた。今後は生徒の日常活動への広がり結びつけて行く。

6. 次年度への課題・改善方策

- (1) 本校に在学する多くの生徒は、基本的な生活習慣が身につけており、特別指導を受ける生徒は減少している。遵法精神や協調心、社会性など自ら考えて行動できる力を育てる教育が益々求められている。進学・就職に関係なく、高校を卒業したら大人であるという自覚を持たせることが肝要である。
- (2) 学習指導や進路指導に関しては、早い段階で進路目標が決まらない生徒が多いため、計画性や主体性の伴った学習習慣はまだ十分とは言えない。本校には多くの特色あるコースがあり、多様なニーズを持った生徒が存在することから、個に応じた学習指導計画を綿密に立てる必要がある。日常の学習指導と併せ、生徒の実態に即した学習指導と進路指導を今後も行っていく。
- (3) 教育環境については、昨年度までに、耐震構造の校舎・体育館・実習棟、自転車駐輪場、緑化工事、いこいの広場も完成し、申し分のない教育環境となったが、熊本地震によって傷んだ箇所の復旧工事や28年度に予定していた周辺施設・設備の工事は次年度も続く予定である。安全安心な教育環境を維持しながらより充実した文徳学園へと進化することを目指す。
- (4) 生徒活動の活性化については、アンケートからもわかるように多くの生徒が毎日喜んで登校している。今後も生徒全員が夢を持ち、目標を叶えるために毎日充実した学校生活を送る学校を目指さなければならない。